

令和7年4月7日（月）

1 学期 始業式 訓話

桜の木の下で

校長 岡 祐一郎

先ほど紹介を受けました、岡です。

4月になり、この武雄高校に来て、校門をくぐり、坂道を登ったところで桜の木の花びらが迎えてくれたのを大変嬉しく思いました。

桜の花が舞うのを見て、私は、思い出す詩があります。

「年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず」

中国の唐の詩人である劉希夷（りゅうきい）の漢詩「代悲白頭翁「白頭（はくとう）を悲しむ 翁（おきな）に 代（か）わりて」と題する詩の一節です。

「毎年毎年、その時季が来ると、花は変わらずに同じように咲くけれど、その花を見る人は年々変わっていき、同じではない」というように解釈できるかと思います。

春は、出会いと別れの季節、皆さんもこの春、いろんなかたちで、人との別れ、そして出会いを体験したことと思います。私もこれまで、春が来るごとに、桜の花を眺めながら、多くの出会いと別れを経験してきました。

ここに一枚の写真があります。この武雄の地にあった桜の木の写真です。昭和44年、ちょうど本校の図書館が建てられたころ、56年前の春の、桜の木の下写真です。

桜の木の下には、今年と同じように、多くの人が行き交っています。ただ、その桜の木の下を行き交う人々は、当時、この武雄の地にいた人たちですが、今年、桜の木の下を通った人たちとは違う、別の人たち、当時の人たちです。桜の花の様子は、今と全く変わりませんが、人は入れ替わっています。

写真の中で、桜の木の下を行き交う人たちは、皆どこか嬉しそうな表情をしています。桜を美しいと思う気持ちは、今の私たちと変わらないでしょうが、生きる時代が違います。現代を生きる私たちとはまた違う、ものの見方、感じ方、考え方を持っていたことと思います。この、人間のものの見方、感じ方、考え方の集まったもの、人間のものの見方、感じ方、考え方の総体のことを、文化と言います。文化が違うと言うのは、人間のものの見方、感じ方、考え方が違うということになります。

同じ国に住んでいても、同じ時代を生きていても、文化が違うとを感じる場面はいくつもあります。新2年生、新3年生の皆さんも、1年間、ないしは2年間、同じこの武雄高校で過ごしてきた同級生の友人に対して、文化の違いを感じたことが、何度もあるでしょう。

56年前のこの写真の中で、同じ桜の木の下をくぐり、同じ桜の花を眺めている人同士であっても、それぞれ考えていること、思っていることは当然違う。写真の中で、桜の花の下を行き交う人たちはそれぞれみんな、心の向いている方向は違い、今何が気になっているかも違う。同じ時代を生き、同じ空間を共有している人同士でも、です。

それぞれ少しずつ違う、ものの見方、感じ方、考え方を持っている者同士が、共に生きる、それが社会です。社会の中で生きるとは、多様性の中で生きていくということです。

違う考え、異なる感性を持っている人と出会うのはとても大切なことです。そういう人と話すことで、自分のものの見方、感じ方、考え方が変わるということを経験します。自分とは違う引き出しを持っている人の話は面白いですね。なぜならそれは、自分の中にもこういうことに共感する部分があったのか、と気づく、とっておきの経験だからです。自分の中の多様性に気づかせてもらえるからです。

新年度が始まりました。授業、行事、探究活動、これからまた始まる学校生活の中で、皆さんは、他とかかわり、学びを得てほしいと思います。

